

(別紙1)

栽培基準に定めるべき共通事項(第5条関係)

登録番号		生産集団名	
------	--	-------	--

1 表示を行う農産物及び品種名

農産物名		品種名	
------	--	-----	--

2 作型

区 分	内 容 等				
作 型	肥料・化学肥料	高収地帯・低地土(乾)			
	化学合成農薬	うるち(移植)			
は 種 期		月	日	～	月 日
定 植 期		月	日	～	月 日
収 穫 期		月	日	～	月 日

注1) 作型には、登録基準で設定する作型を記入すること。
注2) 登録番号は栽培基準の変更の場合に記入すること。

3 土づくり技術・施肥管理

(1) 土づくり技術の概要

取 組 内 容

[たい肥等有機物施用量]

施用 種別	区分	たい肥等の種類	施用量・生 産量(A)	窒素割合(B)	乾物率(B')	窒素換算 (A×B)	乾物量 (A×B')	係数	輪作年 数	年平均

(2) 施肥管理の概要

取 組 内 容

(3) 土壌診断(窒素供給力)の結果

分 析 項 目	分 析 値	総窒素施用量上限 値(kg/10a)

注1) 分析項目には、「湛水培養窒素」「熱水抽出性窒素」「生土培養窒素」「硝酸態窒素」を記入する。
注2) 「総窒素施用量上限値」の欄には、登録基準に基づく上限値を記入する。
注3) 土壌診断結果を添付する。
注4) 土壌診断を複数行った場合は、最小値にアンダーラインを引く。
注5) 土壌診断を必要としない作物では、この欄の記入を必要としない。(登録基準「別表2」を確認すること。)

(4) 使用肥料の概要

① 施用量総括表(窒素成分)

ア 総窒素施用量、化学肥料施用量が最大となる施肥パターン例(計画)

(単位: kg/10a)

区分	施肥パターン No.	計 画							
		区分	種類・銘柄名	最大 使用量 (kg/10a)	施用時期	窒素施用量		化学肥料慣行レベルと の比較等	
						化学肥料 由来窒素 (kg/10a(N))	有機物肥料 由来窒素 (kg/10a(N))	計	慣行レベル (kg/10a(N)) 削減率(%)
化学肥料 最大値									
		計							
総窒素 最大値									総窒素施用量上限値
		計							

注) (個票)の「1 全ての施肥パターン(計画)」から化学肥料施用量が最大となるもの、総窒素施用量が最大となるものを転記する。

イ 総窒素施用量、化学肥料施用量が最大となる施肥パターン例(変更前または前年実績)

(単位: kg/10a)

区分	施肥パターン No.	変更前栽培基準(または前年実績)							
		区分	種類・銘柄名	最大 使用量 (kg/10a)	施用時期	窒素施用量		化学肥料慣行レベルと の比較等	
						化学肥料 由来窒素 (kg/10a(N))	有機物肥料 由来窒素 (kg/10a(N))	計	慣行レベル (kg/10a(N)) 削減率(%)
化学肥料 最大値									
		計							
総窒素 最大値									総窒素施用量上限値
		計							

注1) 変更前または前年実績の施肥パターンのうち化学肥料施用量が最大となるもの、総窒素施用量が最大となるものを記入する。

注2) 変更承認申請の場合は当該表示制度で登録されている基準、新規登録申請の場合は前年実績を記入すること。

4 防除技術
(1) 病害虫及び雑草防除

取 組 内 容											

(2) 農薬の使用
① 化学合成農薬の使用回数(登録基準の別表3-1の2の農薬)

項 目	基幹 臨機	計 画					変更前栽培基準(または前年実績)				
		対象病害虫等名	商品名	使用 時期	成分回数	使用量	対象病害虫等名	商品名	使用 時期	成分回数	使用量
殺虫剤	基幹										
	臨機										
殺菌剤	基幹										
	臨機										
殺虫・殺菌剤	基幹										
	臨機										
除草剤	基幹										
	臨機										
植物成長調整剤	基幹										
合計	基幹										
	臨機										
計		—	—	A→		—	—	—	—	—	—
(参考)慣行レベル		—	—	B→		—	—	—	—	—	—
慣行との比較割合 (A/B*100)		—	—	—		—	—	—	—	—	—

[備考]											

- 注1) 使用量には、希釈倍率〇%／10a又は〇kg／10a等を記入すること。
- 注2) 使用時期は各項目ごとに時系列に記入すること。
- 注3) 同一農薬であってもまとめて記入しないこと。
- 注4) 本表には、「北のグリーン農産物表示制度生産集団登録基準」別表3-1の2の(1)の①～③に掲げる農薬は記入しない。
- 注5) 化学合成農薬の商品名は、剤型別(粒剤、乳剤等)を記入すること。
- 注6) 使用する化学合成農薬の「成分」、「対象作物」、「適用病害虫・雑草」、「使用量」、「使用時期」、「使用回数」、「使用方法」等が確認できるものを添付すること(なお、変更承認申請の場合は、新たに栽培基準に定めるものについて添付)。
- 注7) 備考欄には各化学合成農薬の使用回数の補足事項について記載すること。
- 注8) 変更承認申請の場合の変更前栽培基準欄には、当該表示制度で登録されている基準、新規登録申請の場合は前年実績を記入すること。

② 化学合成農薬以外の農薬の使用回数(登録基準の別表3-1の2の(1)の①～③の農薬)

項 目	計 画					変更前栽培基準(または前年実績)				
	対象病害虫等名	商品名(種別)	使用 時期	成分回数	使用量	対象病害虫等名	商品名(種別)	使用 時期	成分回数	使用量
殺虫剤										
殺菌剤										

- 注1) 使用量には、希釈倍率〇%／10a又は〇kg／10a等を記入すること。
- 注2) 使用時期は各項目ごとに時系列に記入すること。
- 注3) 商品名(種別)欄には「天敵昆虫」「微生物農薬」等を商品名とともに()書きで記入するものとする。
- 注4) 使用するカウント対象以外の農薬の「対象作物」、「適用病害虫・雑草」、「使用量」、「使用時期」、「使用回数」、「使用方法」等が確認できるものを添付すること(なお、変更承認申請の場合は、新たに栽培基準に定めるものについて添付)。
- 注5) 変更承認の場合の変更前栽培基準欄には、当該表示制度で登録されている基準、新規登録申請の場合は前年実績を記入すること。

5 土壌改良資材等その他の資材

使 用 時 期	資材名(商品名)	用 途	使 用 量

- 注1) 「資材名」欄には、3の(4)、4の(2)以外で生産過程等において使用するすべての資材を記入する。
- 注2) 使用時期は各項目ごとに時系列に「〇月頃」記入すること。
- 注3) 使用する土壌改良資材の「用途」、「使用量」等が確認できるものを添付すること(なお、変更承認申請の場合は新たに栽培基準に定めるものについて添付)。

(個票)

1 全ての施肥パターン(計画)

(単位: 人、kg/10a)

No.	構成員数	窒素最大値	化学肥料最大値	区分	種類・銘柄名	最大 使用量 (kg/10a)	施用時期	窒素施用量			施用種別	備考
								化学肥料 由来窒素 (kg/10a(N))	有機物肥料 由来窒素 (kg/10a(N))	計		
				計								
				計								
				計								
				計								
				計								
				計								
				計								

注1) 本様式には集団において施用される全ての施肥パターンを記入する。

注2) 種類・銘柄が同じであっても、土壌条件の違いなどにより肥料の最大使用量が異なる場合は別のパターンとして記入する。

注3) 化学肥料は最も窒素成分量(使用量×窒素成分割合)の多い銘柄名を記入する。

注4) 有機配合肥料、有機物については全ての種類銘柄を記入する。

注5) 「構成員数」欄には当該施肥パターンに該当する構成員の人数を記入する。

注6) 施用時期については、○月頃等を記入する。

2 使用する有機配合肥料、有機物の一覧

(単位: %)

区分	種類・銘柄	化学肥料 由来窒素 成分	有機由来 窒素成分	備 考
有機配 合肥料				
有機物				

注1) 有機配合肥料については窒素成分由来が確認できるものを添付すること(なお、変更承認申請の場合は、新たに栽培基準に定めるものについて添付)。

注2) 有機物については[参考1]たい肥等有機物の窒素換算量及び乾物量の目安より転記すること。